

# YBBL大会競技運営細則

2025年7月30日 改訂

1. 試合の運行に関する統制は横浜市小学生野球連盟にて行う。
2. 代表者会議で決められた事項はチーム全員に徹底させること。
3. 選手の登録人数は25名以内とする。

追加登録、背番号変更等はブロック予選初日迄にブロック長に提出し、ブロック長は速やかに本部へ報告すること。

メンバー表は3部提出し、本部大会の決勝戦は5部提出すること。

## 【各区選抜大会】

- ① 選抜大会への選手選出については、各区のYBBL加盟チームから選出された選手で構成された各区選抜チームに限定する。
- ② 登録票はブロック予選初戦時にブロック長へ2部（うち1部は本部用）提出のこと。
- ③ ブロック予選については、各区選抜3チームおよび4チームの構成で総当たり戦として予選を行い、上位2チームが本部大会（トーナメント方式）に出場する。
- ④ ブロック予選において、勝率が同一の場合は、得失点差で順位を決定する。得失点差の計算には特別延長での得点及び失点は含まない。得失点差も同一の場合は、直接対決での勝敗で順位を決定する。

## 【4年生大会】

- ① 各区による4年生大会の優勝チームや推薦チームを本大会に選出する。原則として、単独チームが望ましいが、混合チームの場合は理事長の承認を得ること。また、YBBLに加盟していないチームは参加できない。
  - ② 捕手・投手間は14m、塁間は21mとする。
  - ③ ボークや振り逃げは一回目から取り入れる。
4. ファウルボールは直ちにベンチに近いチームが取りに行くこと。バックネットへのファウルボールは攻撃側のチームが取りに行くこと。
  5. ベンチは組合せの若い番号を一塁側とする。
  6. ベンチに入れる人員について
    - (1) ベンチ入りできる指導者は監督・コーチ2名・代表者・マネージャー・スコアラー・給水補助員2名の8名以内とし、監督・コーチ2名はユニフォームを着用それ以外はチーム帽を着帽すること。なお代表者不在の場合は7名以内とする。
    - (2) 監督（代理を含む）以外のコーチの欠員が出た場合はユニフォームを着用した指導者を補充することが出来る。背番号は問わない。
    - (3) 試合中はゲームに直接関係のない応援の父兄はベンチに入れない。
  7. 定められた者以外はベンチの縁石、白線よりみだりに出ないこと。
  8. 試合開始予定時刻前でも前の試合が終了後20分経ったら開始する。
  9. YBBL正式試合について
    - (1) 試合は6イニングとし、試合時間は1時間30分（4年生大会は1時間20分）とする。（決勝戦は27.参照）
    - (2) 規定時間を過ぎ同点の場合、下記、特別延長ルールを適用する。
      - 前の回の最終打者が1塁の走者、その前の打者が3塁の走者
      - 1アウト、打順は前の回の継続打順とする。時間に関係なく決着がつくまで行う。
    - (3) 制限時間内に同点で6回が終了し、且つ時間が残っている場合も7回より上記の特別延長ルールを適用する。
  10. 点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降は7点差とする。（決勝戦は27.参照）
  11. 相手チームを誹謗したり、やじったりしないこと。
  12. 試合前のシートノックは後攻より5分間ずつとする。都合によりシートノックがない場合もあります。
  13. 投球練習は初回5球、2回目より3球以内とする。投球練習時の捕手は防具一式を着用すること。
  14. 選手の交代は、必ず監督が球審に申し出ること。
  15. タイムについて
    - (1) 監督タイム、守備タイム、攻撃タイムは、それぞれ6回戦の場合3回以内とする。  
監督がタイムの指示をした場合は監督タイム、選手間のタイムとして内野手が集まった時は守備タイムとしてカウントする。  
捕手または内野手が1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。  
なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）となった場合は、1イニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手のもとへ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督またはコーチのみ回数には含まない。
    - (2) 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側のタイム1回とカウントする。
  16. 抗議は監督・当該選手のみとする。
  17. 攻守交代は敏速に行う。打者は速やかに打席に入り挨拶は無用である。
  18. 選手及び監督、コーチの履物は運動靴又はゴムスパイクまでとしそれ以外のものは使用しないこと。
  19. 監督（背番号30）、コーチ（背番号28、29）はユニフォームを着用とする。メガホンは監督のみ可。
  20. 引率責任者、ボランティアの服装は特に定めがないが、スポーツにふさわしい服装のこと（下駄、草履、特殊なアロハシャツ等はさけること）。
  21. 試合スケジュールについて
    - (1) 選手の学校行事の場合に限り、試合予定変更を考慮するが、事前に連盟本部に連絡のこと。
    - (2) ブロック戦においてはブロック長に連絡すること。
    - (3) 但し、学校行事は1回限りとする。本部大会もこれに準ずる。
  22. 選手の危険予防及び健康管理についてはチームにおいて十分に留意すること。事故に対する責任は連盟として関知しない。  
ベンチ入りする選手・指導者は必ずスポーツ傷害保険に加入すること。
  23. 使用球は、J号球とする（ナガセケンコーボールJ号）。ブロック予選においては1試合につき2個のボールをチーム負担とし、本部大会は連盟で用意する。  
各区選抜大会はブロック予選も含めて連盟で用意する。
  24. 連盟の大会について、大会不参加で継続料（1,000円）を納入する限り対戦表に掲載する。再度参加する。  
場合、連盟参加登録料（3,000円）は不要とする。  
なお、連続3回以上不出場で継続料を未納チームは連盟名簿より削除し、再度加入の場合は新規登録料を徴収する。

# YBBL大会競技運営細則

2025年7月30日 改訂

25. 投手について
  - (1) 投手の投球について変化球を投げないよう指導徹底する。
  - (2) 球数制限は設けない。
26. 試合は出場選手の健康を考慮し1日1試合以内とする。但し、各区選抜大会は1日2試合も可能とする。
27. 本部大会・各区選抜大会の決勝戦は点差によるコールドゲームは摘要しない。試合は1時間30分の制限時間に関係なく6回まで行い、同点の場合は9回までとし、以降は9項目(2)の規定による。  
4年生大会の決勝戦は点差によるコールドゲームは摘要しないが、試合時間は1時間20分とする。同点の場合は6回までとし、以降は9項目(2)の規定による。
28. 雨天などで試合の続行が不可能の場合、試合が4回を終了している場合はその試合は成立する。(後攻のチームがリードし、4回の表を終了していれば成立する)なお、4回を終了していない場合はノーゲームとなり、後日改めて初回からスタートする。  
\*参考事例  
4回が終了し、後攻が5対3でリード。5回の表先攻が3点を入れ試合を逆転、その裏雨天となり試合の続行が不可能と判断された場合は、後攻のチームは裏の攻撃ができないので、回終了時点の5対3で、後攻のチームの勝ちとなる。また、4回終了時に同点の場合は、後日特別継続試合として、元の試合の中断された個所から再開する。
29. 回の始まる時の先頭打者はピッチング練習の最終投球までウェーティングサークルから出てはならない。
30. 隠しボールについては連盟としては認めない。
31. 一塁へのヘッドスライディングは、危険防止の為禁止とする。一塁を駆け抜けるよう指導すること。
32. ブロックでの審判員は毎年行われる連盟審判講習会の修了証(または公認員証)をブロック長へ提示することを原則とする。
  - ・参加チームは上記の審判員2名を前後審判員として派遣しなければならない。
  - ・本部大会(4年生大会含む)においても前後審判を採用する。
  - ・本部大会審判対応においては審判服着用を必須とする。
33. 申告故意四球を認める。  
打者が打撃中にボール4個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合(この場合はボールデッドである)、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁(が与えられる。)へ進むことが許される。  
※申告故意四球の確認事項
  - ① 従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能。
  - ② 打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
  - ③ 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
  - ④ 申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。
  - ⑤ 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
  - ⑥ 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
  - ⑦ リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。
34. 指名打者制度は採用しない。
35. 大人用複合バットの使用は禁止とする。またグラウンドルールによるバット使用制限に従うこと。  
ブロック予選を含め、用具チェックにて確認を行う。
36. その他の事項については全日本軟式野球連盟の野球規則に準ずる。